

Fans

生涯学習情報誌
- フォンズ -

77

No. 2016年1月12日発行

常陸太田市フォンズ・ネットワーク事務局

常陸太田市生涯学習センター内

〒313-0061 茨城県常陸太田市中城町 3280 番地

TEL: 0294 (72) 8888 / FAX: 0294 (72) 8880

酒蔵

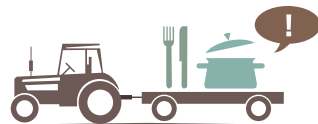
岡部 彰博

毎年冬、まだ日も昇る前の早い朝、すでに酒蔵からは明かりが漏れ、蔵人の掛け声が響き渡る。私の家は明治八年から「酒造り」をしている。

幼い頃、蔵に広がる日本酒の香り、米を蒸す蒸気、水の音が印象的であった。酒蔵では水を使うことが多く、「七割は水まわりの仕事」と言われている。子供ながらも、酒造りは過酷な仕事だと感じ、酒造りに従事する杜氏を始めとした蔵人のバイタリテイに圧倒された。また、蔵人を眩しく感じ、その姿に胸が高鳴り魅了された。そして、自然と朝早くから蔵を覗きに足を運ぶようになった。時には蔵人と、普段よりも早い朝食を共にした。なにも手伝わてないが、とても美味しかったのを憶えている。時は流れ現在、私はその家業である酒造りをしている。自分自身で日本酒を醸し、自分なりの日本酒を表現したいと考えている。ワインにはテロワール（地域主義、地域の個性）という言葉がある。常陸太田は水、大地、空、空気、米、そして人…全てに恵まれた場所だと思う。この恵まれた環境なら、テロワールの表現を使わない手はない！創業者岡部林吉の、地域に根付いた酒造りという理念にも相通じるものがある。そしてまた、酒造りは「文化」であり「伝統」だと思ふ。しかしその中で変えてはいけないもの、変えなきゃいけないものをよく見極める事の必要性を感じている。

松盛六代目、目下勉強中です。

常陸太田ファーム&キッチン



常陸太田ファーム&キッチン

常陸太田の若い農業者と飲食店が手を取り合って、常陸太田市の農産物のおいしさをアピールしようと思ったファーム&キッチン（以下F&K）、皆さんは何種類味わってごらんになりましたか？ 十一月に行われた「柿フェス。」で八回目を迎えたF&Kの取り組みをご紹介します。

常陸太田市農産物を、地元の料理人が積極的に利用し、メニュー化してアピールすることによりその食材の魅力を広めたい。また、色々なメニューを考案し試食しあうことで、料理人同士の交流や学びの場となり、交流も生みだしたい。常陸太田の飲食店と農産物生産者が団結して常陸太田の「おいしさ」を広めたいと始まったF&Kは、地産地消のすすめをよく耳にするものの、近くにいなながら、あまり交流のなかったキッチンとファームに新しい出会いも生み出しました。毎回、新しいメニューが生まれ、定着化されたメニューも多いそうです。季節ごとに行われてきたF&Kでは、毎回チラシを持って、お店めぐりをする方をよく目にしました。

飲食店同士は、商売敵とい

った感覚は、もう過ぎた時代のことなのです。試食会から、次の食材を決める反省会まで、いつも和気あいあいです。常陸太田といえば「巨峰」、ブドウから始まり、梨・かぼちゃ・トマトなど様々な農産物にトライしてきましたが、今回は、オール常陸太田をテーマに、田植え稲刈りからすべて地元の人が呼びかけ常陸太田にこだわったお酒を作りだしてきた「自酒プロジェクト」とのコラボで、酒粕やお酒そのものを使ったメニューに挑戦するそうです。

自酒プロジェクトとの連携で、地元の多くの食材を取り上げてきたF&Kは一区切り。次はどんな食材を選ぶのか、あるいは新しいステップに進むのか？若い農業者と料理人たちの取り組みに注目したいと思います。

5.かぼちゃフェス



「かぼちゃのクリームタルト（かぼちゃ餡入り）」菓子のやまがた

6.あずきフェス



「あずきと和牛のチリビーンズ ココット焼 パケット添え」わたる家

7.とまとフェス



「竜神トマトの水まんじゅう」玉喜屋 本店

8.かきフェス



「柿と生ハムのピッツァローズマリー風」金砂の湯・遊膳さくら

1.ぶどうフェス



「合鴨とアボガドの炙り焼き 巨峰ビネガーソース」旬彩 まるよし

2.おこめフェス



「常陸太田ウィークエンド」パティスリーナチュール

3.いちごフェス



「ひたち姫と3種チーズのオトナのカブレゼ」なごみ家

4.なしフェス



「なしのショコラケーキ、なしのキャラメルロール」ガトーデジー

ぶどうフェス.

常陸太田市の若い農業者が豊かな自然・風土を生かし、また親子代々作り継いできた想いをこめて作った農産物…。その想いのパステルタッチを受けて、料理人たちが新しい発想でよりリアルな料理を作り出しました。第1回の食材は「ぶどう」、はっとするぶどうメニューの数々をご賞味ください。

■ 期間：平成25年8月31日（土）～9月16日（月）
■ 場所：常陸太田ファーム&キッチン参加店の各店舗
※この日の限定メニューは各店舗のホームページでご確認ください。

Farm	Kitchen
本多 豊助（増井町）	小倉屋食堂（湯野町）
神山 誠光（増井町）	みくら（東郷町）
椎名 直（増井町）	なごみ家（湯野町）
武藤 雅平（増井町）	カ・ブルグ（二子町）
	ニュー・ハナ（三子町）
	あひるの工房cafe（東三町）
	Cafe 結+1（東一町）

主催：常陸太田ファーム&キッチン実行委員会
共催：常陸太田市・常陸太田市観光協会
後援：常陸太田市農工会・茨城県では農業協同組合

常陸太田ファーム&キッチン実行委員会事務局
〒312-0001 常陸太田市 常陸太田市観光協会 常陸太田市農工会 常陸太田市農業協同組合
TEL: 029-361-1125
http://f&k.com

第1回 ファーム&キッチン
「ぶどうフェス」ポスター

ファーム代表・萩谷浩司さん



「野菜や果物の生産者は、一般のお客様の前に出ることがあまりありません。ですので、このような取り組みで食材の生産者としてアピールできたことは、大変いい機会となりました」。市内で梨とイチゴを生産している萩谷浩司さんはF&Kの生産者側の代表です。地元の農産物を積極的にメニューに取り上げてくれる店舗が増えてきたこともうれしいことのひとつとあげていました。レストランやケーキ店の方たちとも交流が生まれ、大きな刺激になっているそうです。「毎回試食会が開かれますが、自分たちが作った農産物がこんなメニューになるんだと、おいしさも含めてびつくりします。」

キッチン代表・田仲昭一さん



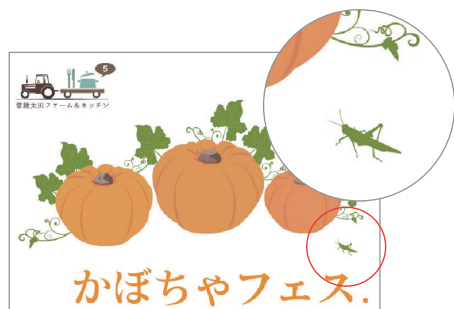
「F&Kをやつて一番の収穫は、横のつながりができたことです。ただつながるだけでなく、それぞれが持つ得意不得意などの情報まで交換できるようになりました。」と語るのはいキッチン側の代表田仲さん。「毎回新しいメニューを考案しないとならないので、刺激というかプレッシャーもあります。その分メニューが完成した時は達成感もありますし、日々の仕事への α になっていると思います。」「取り組んできたいいろいろな農産物を通して、生産者の姿を間近に見つめることができました。仲間となった生産者の作る農産物は大切につかわなくちゃね。」

虫の秘密

ファーム&キッチンのチラシには、毎回小さな虫たちが登場しています。実行委員会のメンバーも気がつかなかったという虫の存在。デザイナーさんの遊び心をもくすぐるような楽しさがこの取り組みに隠されているのでしょうか？生産者と飲食店主さんたちの前向

きな会議にひそかに加わっているデザイナーさんの化身かもしれませんね。次のF&Kは二月、四ページでご紹介している「自酒プロジェクト」とのコラボで開催予定だそうです。今度はどんな虫としてチラシに潜むのか、皆さんも目を凝らして探してみてください。

(萩谷浩司・塩原慶子)



5. かぼちゃ (平成 26 年 10 月)



1. ぶどう (平成 25 年 8 月)



6. 小豆 (平成 27 年 2 月)



2. お米 (平成 25 年 11 月)



7. とまと (平成 27 年 6 月)



3. いちご (平成 26 年 2 月)



8. 柿 (平成 27 年 11 月)



4. 梨 (平成 26 年 8 月)

自酒プロジェクト「ご縁だね」

「自酒プロジェクト」と聞いて、「地酒」では？と思った方も多いのではないのでしょうか。でもこのプロジェクトは、常陸太田の水・米・酒蔵・人などオール常陸太田のお酒が飲みたい。自分たちのお酒を造ろう!!という想いから始まったので「自らの酒」で「自酒」となったのです。そんな自酒プロジェクトのご紹介です。



自酒プロジェクト代表のお二人。岡部彰博さん（左）と栗原玄樹さん（右）

スタートしたのは二〇二二年。メンバーは酒蔵、農家、飲食店、酒販売店、主婦、一般市民など多くの方が関わってスタートしました。まず酒米である美山錦を太田で育てるところから始まり、御田植祭、稲刈りイベントなどメンバーが関わりながら進めていきました。最初の年は稲刈り前に台風で稲が水につかってしまったり、酒米の育成に戸惑ったり苦労もあったようです。それでも年を重ねるごとに参加者は増えて、昨年の「ご縁祭」では県内外から、親子での参加者も増え約二〇〇人の参加となりました。昼間は田植えをしてどろんこまつりで交流し、夜は酒蔵で自酒を楽しむ。自分たちで植えた苗が酒米になり、翌年お酒になる。そんな人々の交流や繋がりがこのプロジェクトの魅力なのかもしれません。

（萩谷浩司）



「ご縁だね」の秘密

四〇〇通の応募

地酒の名前は二〇一四年に名称募集を行い二〇一五年一月の最終選考で決定しました。約四〇〇通の応募があり北は北海道、南は九州まで全国から応募頂きました。

京都のラジオ番組への出演

京都のラジオ番組で名称募集を取り上げてくれ、番組に電話で出演したりもしました。

生まれ変わったデザイン

名前が決定した後、デザインも公募で決まり三月より新ラベルで販売を開始しました。

評判上々

新しい名前とデザインは試飲会などでも反応が良く、特に女性のお客様が手にとつてくれます。最近では県内の他の酒蔵さんからも太田で自酒やっているね、と言われる認知度も上がってきたと感じています。

ご縁を大事に

これからもプロジェクトを通じて繋がった縁を大切にしながらオール常陸太田のお酒を多くの方々に味わっていただきたいです。

ご縁だね ロゴに含まれる五色の丸の意味

洗朱 「太陽（光）」をイメージ

水 「常陸太田の水」をイメージ

梅紫 「人々の熱き想い」をイメージ

蒸栗 常陸太田産「稲、米」をイメージ

裏柳 豊かな常陸太田の「自然」をイメージ

峰山中学校

萩谷 浩司

峰山中学校は平成十七年に新体育館が、平成二十三年には新校舎が完成し、新しい施設の中、二二一名（平成二十七年十一月現在）の生徒が勉強や運動に励んでいます。中学校の文化祭「みねやまつり」を終えた翌日、生徒会役員の七人に話を聞いてきました。

まず、峰山中の特色について伺ったところ、「陸上が強い」とのこと。各部活からの有志で結成した「チーム峰山」が市内の陸上大会で総合六連覇を達成したそうです。この記録は生徒たちの自信につながっているようで、今年の七連覇に向けての意気込みも感じられました。

そして、「元氣がある」ということです。一学期に部活動ごとにユニフォームを着て、部の特色を活かしたあいさつ運動を行ったそうです。例えば、サッカー部は、あいさつが小さいとイエローカードやレッドカードを見せるなどです。自分たちで考え楽しくあいさつ運動ができるように取り組んだとのことでした。

いろいろお話を聞いて印象に残ったのは「校歌を大きな声で歌う」という答えでした。中学生になる

と校歌を歌うというところが何となく気恥ずかしくなるようなイメージでしたが、自分の学校に誇りを持ち、学校が好きなんだという思いが伝わってきました。



パルティールホールで行われた「みねやまつり」

■生徒会役員のみなさん

上段左より 井坂美優（幹事）、小山菜里夏（幹事）、佐々木優太（幹事）
下段左より 橋本唯南（副会長）、小濱裕平（会長）、石川智章（副会長）、富田遥斗（幹事）



常陸太田短歌会

黒羽 文男

常陸太田市文化団体連合会は、趣味のサークルの連合会で、ジャンルは、芸能、舞踊、文学、映像、工芸、そして健康等で、百二十団体が加盟し、会員は、約三千名を数えています。現会長の飯嶋武さんは、「同じ趣味を持つことで楽しい・面白いと感じる事が、あなたの才能です。面白い事や楽しい事に打ち込むことによつて、若さや健康が湧いて来ます。」と話してくれました。

当欄では、常陸太田市文化団体連合会に加盟する趣味のサークルを紹介していきます。

今回は、飯嶋さんが代表を務める常陸太田短歌会にお邪魔して、短歌の魅力を知りました。

飯嶋会長は、高校の国語教師時代から始めた短歌創りを四十数年続けているそうです。三十一文字の中に、その時の情景や思い、風景や香りまで織り込め、後で読み返すと鮮明にその時の記憶が蘇るそうです。

常陸太田短歌会は、毎月第三月曜日午後一時半から約二時間、太田公民館で前半に創作短歌の合評会、後半は万葉集から現代までの古今の名歌を鑑賞し、短歌についての幅広い

教養を身につけ短歌創作に役立っています。また、会員の自信作や鑑賞した古今の名歌を掲載した年間短歌歌誌「常陸太田短歌」を発行し、生涯学習フェスティバルでは会員各々の最高作二首を発表しています。

「感動する事が多い人は、ふけないとも言われています。脳の運動をみんなでしましょう」と飯嶋会長は入会を呼びかけています。

□お問い合わせ（会長宅へ）

飯嶋 武 電話七二一六・一七〇

□会員の入賞作品

茨城県芸術祭参加短歌大会・選者賞

久々の夕焼け空を眺めつつ

三本の鎌丁寧に研ぐ

木村 澄子

国民文化祭短歌大会・秀逸賞

涙して「蟹工船」を読み取り

明日さえ見えぬ日雇い派遣

飯嶋 武

NHK学園短歌大会での七尾市長賞

向き合ひの座席のふたりの手話続き

窓の光が指におどりぬ

上野 八重子

金砂郷の「小さな家」

塩原 慶子

常陸太田市は文化と歴史の町、町のあちこちに立派な建築物があり、保存にかけられる地元の意気込みの素晴らしい地域もある。そのようにして守られている建築物ではない、もっと私たちの日常に近いところにある建物、例えば学校への道すがらとか、毎日の通勤や買い物で通る道の、その風景の中にある建物に目を向けてみませんか。常陸太田は、そんな身近な「文化財の宝庫」でもあるのです。歴史ある建築好きの建築士さんと一緒に常陸太田のあちこちに点在する「隣の文化財」とでもいうべき建物のあれこれをご紹介します。



昔読んだ絵本に「小さな家」というお話があった。それを思い出させるような、小さくて不思議な建物。この前の通りを通る度に「なにやら不思議な建物だなあ」と建築好きのアンテナに引かかる家。門構えの奥に、洋館？伝統的な建物に詳しい建築士さんと一緒に訪問してきました。

久米地域は戦国期以前から佐竹北家の拠点であり、太田を守る北の拠点として久米城（北殿）が築かれました。常光院入口辺りの久米の家並は、そんな佐竹氏時代から続く歴史を感じさせてくれます。その通りに面したI家の薬医門形式の表門から中を覗くと、擬洋風建築といえるこの小さな建物を見つけることが出来ます。（擬洋風建築とは、設計者はなく、懸命に西洋風の意匠を取り入れた建物を作ろうと、日本建築の木工棟梁によつて設計施工されたものです。）若くして家督を継いだという先々代のご当主が建てたもので、竣工年代は不明ですが大正時代とのこと。すでに明治三十七年には木造洋風建築の旧太田中学校講堂が竣工、その他にも多くの洋風

建築が竣工した時代ですので、何らかの影響を受けていると考えられます。醸造研究に使われていたというこの建物、間口二間×奥行一間半（外寸三、六九〇㎜×二、七八〇㎜）の六畳間の広さの総二階建てですが、軒高が低く五メートルほどに抑えられ、建物全体のバランスが良く、遠近法による眼の錯覚からかこれ程小さな建物とは思わせないトリックが仕掛けられているようです。

一階の床は、当初は土間でしたが、後に板張りとなりました。天井は二階床梁あらわしで階高を低く抑えてあります。二階へあがる階段は蔵などによくあるもので、階段の上の跳ね上げ式天井が二階の床になっている形です。東日本大震災で、二階に置いてあったスピーカーがその天井部分に倒れこんでしまったらしく、今は階段から開けることができないままで、今回一階を見ることは出来ませんでした。屋根は寄棟で和瓦土葺き、震災で棟瓦が落下し、今もそのままになっています。また、外壁は下見板張りにペンキ塗り、当主ご自身で何度も塗り替えたという外壁の板も、土台や柱の足元などにも、今は腐れや傷みが目立ちます。

なぜこのような洋風建築を建てたのかは不明とのことですが、何より、先々代ご当主と大工棟梁の遊び心が強く感じられます。これほどの遊び心ですから、小屋裏には棟札、もしくは棟木に何か粋な墨書が残されているに違いない、そんな好奇心を掻き立てられるのです。

今回の記述は、ご当主からのヒアリングと外観目視のみで建築的な調査はしておりませんが、いつの日か詳細調査が出来る日まで、この建物が保存されますことを願わずにはられません。

（ヘリテージマネージャー・梶ひろみさん）



Iさんが学生時代には、友人との麻雀部屋として使っていたとか、懐かしい思い出の建物ではあるようですが「壊してしまおうかと...」。改修にかかる費用を考えもせず、「こんな素敵な建物、大事に残してくだささい」なんて赤の他人が言えるものではないことは、重々わかっておりますが、何も手助けをすることの出来ない自分にやるせなさだけが大きくなります。二〇一一年震災のあと、常陸太田の風景が激変していった記憶は、みなさんまだ新しいのではありませんでしょうか。目になじんだ建物がひとつひとつ消えていくと、そこで暮らした私たちの思い出までが一緒に消えてしまったような気がしたものでした。

絵本の「小さな家」は都市化してしまった元の町から、自然豊かな場所に移築されて新しい暮らしを始める幸せな家の笑顔で終わっていました。金砂郷の小さな家にも、そんなハッピーエンドな未来は見つけられないのでしょうか。

「思い出の絵本」

『おならうた』

田辺 美穂（磯部町）



読んで絵本です。子ども達（特に男の子）には、たまらなく面白かったでしょう。

思い出の絵本はなんだろう？現在中学生の息子達にたずねてみました。「いちばん印象に残っている絵本はなあに？」の問いかけに、息子二人は口をそろえて「おなら！」と答えました。その本は谷川俊太郎さんの詩を絵本にした『おならうた』です。子どもなら皆大好きなおなら！そんなおならの絵本は「いもくつてぶ」で始まります。詩がもたになっているので、ストーリーは特にありません。いろんなシチュエーションのおなら。おならの音も、「ぶ」「ぼ」「び」「す」といろいろです。そして、ページごとの絵も、なとも味のある愉快なものです。気が緩んだ時に思わず出るおなら、大事な場面でこっそり出すおなら。誰もが身に覚えのある日常の光景に、ページをめくるたびに、ゲラゲラ笑いが

私は絵本が好きだったので、楽しい絵本を探しに本屋さんの絵本コーナーへはよく足を運びました。私の絵本選びの決め手は、できるだけ文字の少ないもので、文字の少ない分、絵が個性的なものや色彩がきれいなものです。そして、そんな絵本を家で開くときは、読み聞かせというよりは、子ども達と一緒に絵本の中の世界を楽しみました。文字が少ない絵本は、その時の気分でストーリーが変えられます。時にはお話に合わせてオリジナルソングを作ってみたり、アドリブ満載で盛り上げます。そうやって楽しんだたくさん絵本は、処分することもできず、本棚でしばらく眠っていました。が、今はおチビちゃんのいるお友達の家の本棚へとお引越ししました。うちの子とも達と同じように、笑顔いっぱい読んでもらえたら、私も嬉しく思います。

我が家の思い出の絵本は、みんなदैいっぱい笑った楽しい絵本ばかり。なかでも『おならうた』はナンバーワンです。

ほっと

ひといき

『ウラジロ・裏白』

安嶋 隆



本州中部以南に分布し、里山の林内や林縁に生え、大群落をつくるシダ植物です。よく繁茂した場

ちょっと
ひといき

『また食べられるF&K』

萩谷 浩司

特集で紹介したファーム&キッチン料理は食材の期間が限定されるため、いつお店に行っても買える、食べられるわけでは

ありません。それでも今回の紙面を見てぜひ食べてみたくなうた！という方のために好評につき定番化された料理をご紹介します。まずは木村屋菓子舗さんの「雪いちごのクリーム大福リミテッド」。そして玉喜屋さん

所では、高さ3mを越えることもあります。茎は長く伸び、その先端から毎年「一枚の葉を付けます。市内では人家近くの雑木林やスギ・ヒノキ林内に見られます。葉の裏が白いことから、「心の潔白さ」あるいは「白髪になるまで長生きする」というのでユズリハとともに正月の縁起物として使われています。このように日本人は五穀豊穡、家内安全、無病息災、夫婦円満、子孫繁栄などの縁起物としてウラジロの他、松・竹・梅、ヒイラギ、センリョウ、ナンテン、マンリョウ、ススキ、サカキ、ヒサカキ、シヨウブなど様々な植物を利用してきました。伝統的行事が減少している現在、里山の植物に注目してみませんか。

の「竜神トマトの水まんじゅう」。どちらも季節限定となりますがその時期のお楽しみとして味わえます。ほかの店舗でも定番化された商品がありますので店舗情報など詳しくはWebページをご覧ください。



木村屋菓子舗
「雪いちごのクリーム大福リミテッド」

常陸太田の地名話20

水府『常陸太田市水府地区』

川松 博

昭和三十年（一九五五）三月一日山田村と染和田村そして河内村大字西河内上の一部が合併して水府村が誕生した。その後、同年九月三十日天下野村と高倉村も合併に同意し、新しい水府村の発足をみた。

「水府村」という新村名選定の理由は、この地方は、むかしから水府たばこの特産地であり、水府たばこは、住民の経済を支える主要農産物であったこと。

（現在水府地区の栽培農家は一軒）また、水府城のあった水戸市から離れること二十八キロメートルという、わずかな距離であり、その郊外にも等しい。という二つの理由から新村名を「水府村」としたといわれている。



水府地区での水府たばこ栽培

この水府村は、平成十六年（二〇〇四）十二月二日金砂郷町、里美村とともに常陸太田市に編入した。

〔参考文献〕「茨城県地名大辞典」「茨城県市町村合併史」「水府村史」

安藤朴翁の太田来遊

元禄十年（一六九七）九月、義公は彰考館勤めをしていた京都出身の安藤為實（抱琴）、為章（年山）兄弟の父安藤定為（朴翁）を水戸来遊の旅に招待した。朴翁ら一行が京都から江戸を経て水戸に着いたのは同月二十二日であった。

翌二十三日、朴翁ら一行は、水戸を出発して太田の西山荘に向かったが、義公は磯原に滞在中ということとでそこへ向かうことになった。

この時の朴翁の紀行文が「常陸帯」と題して伝えられているので、水戸から棚倉街道を北上して徳田村から里川村を通り横川村（高萩市）に至る道中の記述を現代風に紹介しよう。

二十三日早朝、同行の仲間と一緒に那珂川を渡り青柳村より太田の郷に至り、里野宮という村を過ぎるに薩都神社がある。神名帳にも載っている古い宮である。

町屋村を越えると右手の方に瀧がある。これが玉簾の瀧かと、岩の上を流れていると聞いたのを見てみようと思つてみたが、白絹で岩を包んだように他に類無き様に思えた。同行者皆それぞれに漢詩や和歌を詠んだので自分も、

それから村々を経て黄昏れ過ぎるころ大村に着いた。ここの住人織部という人とその弟の家にそれぞれわかれて泊まつた。弟の家に泊まつた我々は家人から何くれとなく歓待を受け夜が更けるまで、今日の道すがらの秋景色などを語りあつた。

二十四日、小中・小妻村を過ぎて徳田村に至った。ここの所の郷士大森傳五右衛門が途中まで出迎えに来てくれて、西山公（義公）から「この山の紅葉をぜひ見せるようにと命じられているので、私亭へ立ち寄ってください」などと言ってくれたので案内されるままに暫く休息して、山々の紅葉を見て歌を詠んでみた。

紅葉葉はここをせにせん霜時雨
染めて色こき徳田山かな

また発句

せめにもみちむらこの木々こずえ
 それより里川村に至ればここの郷士蓮見甚
 衛門が出迎えていってくれ、先ほどの大森氏の
 ように口上を述べてスムーズに肩輿を邸内に
 案内し、何くれとなく饗応してくれた。そこ
 で一首、

あらし吹く峯に紅葉をせきとめて
からくれないをさらす里川

君田村に至るころザツと打ちしぐれてきたので

しぐれする空もいとはず山幾重

越えてきみ田の里のもみち葉
今宵は横川村に泊まる。

ここで氣に止まるのは朴翁の歌である。『常陸帶』に書き留められた歌にはご当地名が巧みに詠み込まれている。これは義公からの招待での常陸紀行であつたのでその氣遣いからだろうか。

(吉成英文)

常陸藩

金

[illegible][illegible]

8